■笠井重治　　政治家。衆議院議員。アメリカの確かな友人として，大戦前後の日米関係，のちの米中正常化に大きな役割。
かさいじゅうじ
帝国大学始・1886＝　　山梨県南巨摩郡中富町西島で，幕府にも納入していた紙問屋笠井兵吉の第一子長男に生まれる。

後，弟3人，妹2人ができる。
帝国憲法発布1889＝ 3歳：

漢籍を豊富に有する家で，教育熱心な父のもと，早くから神童ぶりを発揮，

日清戦争終・1895＝ 9歳：小学校3年の時には，父が取り寄せた頼山陽「日本外史」12巻を暗唱させられる。
白馬会・・・1896＝10歳：2歳飛び級で，甲府中学に進学。
1年先輩には，やはり2歳飛び級の，石橋湛山がいた。
_校長幣原担が弟の外交官喜重郎の自慢話をするのを聞き，クラーク博士の薫陶を受けていた後任の校長大島正健の影響で，渡米を志すようになり，
日比谷公園・1903＝17歳：**_卒業するや渡米。シアトルの日本人実業家の勧めで，横断鉄道の工事現場で働き，学資を稼ぐと，**
日露戦争始・1904＝18歳：マーサースクールを経て，**_ブロードウェイ高校に入学，一般家庭に住み込み，家事手伝いしながら通学，**
日露戦争終・1905＝19歳：
韓国反日暴動1907＝21歳：母校甲府中の校友会雑誌に，アメリカの公的教育制度の充実ぶりを寄稿。**_全米学生弁論大会で優勝し，セオドア・ルーズベルト大統領に謁見，現地人を越えるほど堪能な英語でスピーチの才を発揮，**
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝22歳：**_卒業して，シカゴ大学政治学科に進学，**
_シアトル在住の日本人学生会会長にも選ばれるが，日本人移民排斥運動が勢いを増し始めたことから，英語の弁論能力を磨いて，日米融和を訴えて行くのが自らの使命と自覚するようになる。
明治天皇没・1912＝26歳：
大正政変・・1913＝27歳：**＊大学の卒業記念演説会で「太平洋の優越」を話し，全米を代表するシカゴ大学最優秀弁論賞（ジュリアス・ローゼンワルド賞）を受賞，ブライアン国務長官に祝福され，珍田捨巳駐米大使から祝電など，日米の有力者から注目を浴び，大学当局は小冊子にして配布，カーネギー平和財団によって，全米各地で演説する機会も与えられた。ボストンのハーバード大学大学院に進んで，国際法と外国史を学び，**
21ヶ条要求・1915＝29歳：排日運動に対抗すべく，サンフランシスコに設置の日本の宣伝機関｛パシフィック・プレス｝次長に就任。
いつのまにか，愛称"ジョージ"が定着。
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝33歳：**_帰国。ニューヨークの｛ワールド・ワーク｝から依頼されていたインタビューのため，総理官邸に原敬首相を訪問して歓迎され，翌日には与党から，衆議院議員立候補を打診さるが，辞退。**
原敬首相暗殺1921＝35歳：その原首相が暗殺されたことにも衝撃を受けか。
水平社結成・1922＝36歳：
関東大震災・1923＝37歳：震災後，
護憲三派圧勝1924＝38歳：国際出版印刷株式会社を興し，
治安維持法・1925＝39歳：英文の小冊子「米国友好の基礎及びエドガー・アディスン・バンクロフト大佐への讃辞」を刊行。
世界恐慌・・1929＝43歳：東京市会議員選挙に出馬し当選，同参事会員となる。
海軍軍縮条約1930＝44歳：第17回衆議院議員総選挙から郷里の山梨県から無所属で立候補するも落選，以後，落選続く。
満州事変・・1931＝45歳：
五一五事件・1932＝46歳：東京市会議員として，第10回オリンピック中のロサンゼルスを訪問，東京への招致にも尽力。
芥川直木賞始1935＝49歳：満州国皇帝の来日に，接遇役。ハーバードの先輩金子堅太郎の序文を得て，英文冊子「太平洋における合衆国と日本；アメリカ海軍の行動と日本の太平洋における方針」を発行するとともに，金子によって，アメリカ政界への人脈が広がり，近衛文麿との関係も築けた。フィリピン協会を創立して理事に就任。
二二六事件・1936＝50歳：**_第19回衆議院議員総選挙で，ようやくトップで初当選。ブダペストでの列国同盟会議に日本代表議員として出席し，英語で代表演説，帰路，ベルリンオリンピックを観覧し，ヒトラーとも会見。**
日中戦争始・1937＝51歳：再選を果たし，
健保+総動員 1938＝52歳：ハーグでの列国同盟会議でも代表演説，ワルシャワでの万国議員商事会議にも出席。
第二次大戦始1939＝53歳：阿部内閣で拓務参与官を務めたりするが，
大政翼賛会・1940＝54歳：阿部内閣総辞職とともに，下野するも，**_政界とアメリカ界に持つ大きな人脈を背景に，私利私欲にとらわれない"国際的国士"を自任，対米情勢が厳しくなるなか，**
日米開戦・・1941＝55歳：経済使節団を率いてメキシコに赴くが，**_アメリカが日本に禁輸令を発令するや，ワシントンに向かう。全米各地で講演し，パールハーバーの基地司令官にも面会して，戦前最後のとなった船便で帰国。政界要人と会って，なおも戦争回避の道を探るなか，本国からの暗号通信を受け取った駐日アメリカ大使グルーから，天皇に会いたいと打診され，活動開始するも，直後に，スパイ容疑で憲兵に拘束・連行される。**
・・・・・・1942＝56歳：第21回総選挙では，大政翼賛会の非推薦候補だったため落選。
敗戦・・・・1945＝59歳：**＊敗戦とともに，GHQとマッカーサーが最も信頼する人物として蘇るが，天皇制護持こそ日本統治に必要と考えるボナー・フェラーズを支え，彼の推薦で，吉田茂が会う前に，すでに司令官マッカーサーのアドバイス役になり，彼から，フリーメーソン支部を設立して，皇族を会員に迎えたい旨の相談を受けたりするが，すべてが密かになされたため，CIAの工作員との噂も流される。**
新憲法公布・1946＝60歳：**_第22回総選挙で当選して返り咲き，憲法委員として新憲法の審議に加わると，前文の文言に腐心し，マッカーサーの権威を利用して，天皇制護持を確実ならしめる。フェラーズの帰米後は，マッカーサーの情報参謀ウィロビーが巣鴨拘置所で戦犯から事情聴取を行う際に通訳を務めるなどして，親交。**
新憲法施行・1947＝61歳：**_第23回総選挙で落選，以後，表舞台から姿を消す。日米文化振興会を設立し，日比谷公会堂でのリンカーン誕生記念大会で，ロックフェラー3世とともに講演。**
三大事件・・1949＝63歳：天皇のフリーメーソン会員はあり得なかった，東久邇宮が会員第一号になったことではずみがつき，
朝鮮戦争始・1950＝64歳：自ら交渉して，のちの東京タワー足元に隣接する旧海軍の水交社跡を，フリーメーソンの日本本部とすると，佐藤尚武や鳩山一郎，ヤナセ創業者梁瀬長太郎らが続々会員になる。
独立回復・・1951＝65歳：アメリカから査証を受け，**_戦後初めて民間人として訪米。**
なべ底不況・1957＝71歳：ジョン・ウェインの懇請で，日米関係史を描く映画に，堀田備中守役で出演。
ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958＝72歳：
安保闘争・・1960＝74歳：
_この間，日中戦争下に，日本の影響のもと成立した汪兆銘政権の側近で，戦後，日本国籍を取得して川井龍夫になった卜兆鳳と知り合うようになり，
いざなぎ景気1966＝80歳：勲二等瑞宝章，
美濃部都知事1967＝81歳：
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝82歳：日米文化振興会が外務省認可の社団法人第一号に。川井龍夫に連れられ台湾で政府要人を紹介される。
全共闘・・・1969＝83歳：**_定期的に川井龍夫と接触するうち，米政権中枢に届けたいという周恩来の密書をが持ち込まれ，**
ﾄﾞﾙｼｮｯｸ・・ 1971＝85歳：推薦し，盟友フェラーズが日本政府から勲二等瑞宝章を贈られる。**＊ニクソン訪中をめぐる米中交渉が行き詰まるなか，さらに細かい条件を示した周恩来の密書を託されると，シドニーで開催されたロータリークラブの国際大会に出席後，香港で川井と合流し，ともにワシントンに赴いて，ついに，ニクソンが翌年の訪中を電撃発表するに至り，周恩来から炙り出し式の礼状を贈られた。**
日中国交回復1972＝86歳：ウィロビーがアメリカで死去した際にも，丁重な知らせが届けられた。周恩来からの招待で北京を訪問。"中国との復交"を最後のご奉公と考え，次期首相を画策していた福田赳夫の密使の役を担うが，外務省の無策で失敗するも，田名角栄によって，アメリカに先駆けて中国との国交回復が実現され，喜び一入，
ｸｱﾗﾝﾌﾟｰﾙ事件1975＝89歳：昭和天皇が初めて訪米した際，ニクソン大統領がアンカレッジ空港まで出迎えるのにも貢献したという。
田中角栄逮捕1976＝90歳：**_日本のフリーメーソンの最高幹部に就任するとともに，アメリカ建国200年に際し，上下両院から，日米関係への貢献を表彰され，米国議会から顕彰された最初の外国人になって，**
ｼﾞｬﾝﾎﾞ機墜落1985＝99歳：**＊没した。自宅には，直後に，駐日アメリカ大使マンスフィールドが弔問に訪れた。**
七尾和晃「天皇を救った男」，